



TITLE:

あとがき

AUTHOR(S):

芦名, 定道

CITATION:

芦名, 定道. あとがき. アジア・キリスト教・多元性 2003, 1

ISSUE DATE:

2003-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/57670>

RIGHT:

あとがき

この『アジア・キリスト教・多元性』（創刊号）は、このたび、現代キリスト教思想研究会内の三番目の研究会である「日本・アジアのキリスト教と宗教的多元性」研究会の研究雑誌として発刊された。本研究会の趣旨や活動記録などの詳細については、研究会ホームページ (<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/christ/asia/index.html>) をご覧いただきたいが、2002 年 4 月より、毎月一回の研究会を実施してきている。本研究雑誌はその研究成果を公にすることを目的とし、今後、年一回のペースでの刊行を予定している。なお、本雑誌は、経費の問題もあり、ホームページ上での電子ジャーナルの形式を基本とし、印刷部数は最低限にとどめられている点をお断りしておきたい。印刷雑誌をご希望の方は、ホームページ管理者まで E・メールにてご注文いただければ、実費にておわけすることが可能である。

本研究会は、アジアの宗教的多元性の状況下におけるキリスト教のあり方を多面的な視点と方法論によって解明することをめざしているが、現在のところ、各参加メンバーの研究テーマとの関係で、主として、東アジア（とくに日本と韓国）のキリスト教を、歴史的あるいは思想史的な視点から論じることが中心となっている。もちろん、将来的には、文献資料の分析だけでなく、よりフィールドワークに近い方法論も取り入れ、また新しいキリスト教思想の構築にも寄与できる研究へと活動を発展させたいと希望している。こうした問題に関心のある研究者の方々には、ぜひ参加を呼びかけたい。少人数で小回りのきくことを利用して、柔軟かつ活発な共同研究をめざしたい。

本研究会は、メンバーである金文吉氏（釜山外国語大学教授）が、2002 年に京都の国際日本文化研究センターの外国人研究者として来日したことを機会に、それまで金氏と個人レベルで共同研究を行ってきたわたくし芦名とが呼びかけ人となって始まり、京都大学キリスト教研究室を会場に行われてきている。本研究会は、ちょうど同時期に、京都大学大学院文学研究科を中心として始まった、「21 世紀 COE プログラム グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」 (<http://www.hmn.bun.kyoto-u.ac.jp/>) 内の、「多元的世界における寛容性についての研究」研究班（代表：芦名）とは、直接関わりなく開始されたものであり、独立した研究会として活動を行ってきている。もちろん、この点は今後も同様であり、本研究会独自の共同研究プロジェクトの実施についても、現在検討中である。しかし、研究テーマの近さ、研究会メンバーの重なりなどから言えば、本研究会の活動が、21 世紀 COE 研究会との一定の関わりの中で進められるのは当然のことであり、その面で研究会レベルの相互協力にも、今後留意したいと考えている。

本研究会はまだ始まったばかりであり、将来的にいかなる方向に発展することになるかはわからないが、日本とアジアのキリスト教に関する研究の進展に対して、何らかの寄与を行うことができれば幸いである。今後、本研究会へのご支援をお願いしたい。

研究会代表
芦名 定道